

みやけの風

第 81 号

平成14年(2002年)6月8日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpp.org

「何だってまあ、あっちいな」「だからよ。じきに入梅だっちよ」「もう6月だからなあ」「おうよ、6月だ」「こないだはホトトギスの声を聞いたぞ」「まさか」「島にも来てんだかし」「おうよ、きっと来てんじよ」「あれが来んと賑やかだからな」「特許許可局！特許許可局！…ホトトギス…ってな。朝方まで鳴いてたっけが」「アジサイも咲いてんずらにな、懐かしいな」「みんなそうやって島民の帰りを待ってんだじよ」「だから」

みんなの声

～避難生活の中で～

私達の避難生活も早いもので、間もなく2年を迎えようとしています。

この間、振り返ってみると避難地域の皆様や、たくさんの方にさまざまな形でご支援いただいているということに改めて思います。

私達の避難先は、府中市というとても緑が多く自然が色濃く残り、大国魂神社のお祭り等の文化も深く地域に残っている所です。

今では私達も避難先の団地の皆さんに支えられて、団地ごとに行なわれる行事に参加させてもらっているうちに、ご近所の方とも三宅島についてのお話をしたりするようになりましたし、また、いろいろと教えてもらっています。

先日は、年に2回行なわれる「団地の草刈作業」に参加し、皆さんと一緒に作業をしました。天気もよく汗をかきながらの作業でしたが、お話しをしながら楽しく作業ができました。

私達の団地には、三宅島から避難をして入居している方は私達の他に一世帯しか居りませんので、島民同士は勿論ですが、地域の方々との出会いがなければとても心細いものになったのでは、とつくづく感じま

した。

避難という先が見えない辛い現実の中に、このような出会いがあったことが、私達の気持ちの真中を支えてくれているのではないかな？と感じて、大切にしていきたいと思いました。

不安だらけの避難生活の中でいい事探しが出来るようになりました。皆さんは、いかがですか？（府中市 坂上(伊ヶ谷)）

『島じまん2002』に参加して

去る6月1、2日と竹芝棧橋埠頭で開催された『島じまん2002』に、商工会女性部として参加してまいりました。素晴らしい天候に恵まれ、各島鳴り響く太鼓や舞う踊り、そして自慢料理と、そこはまるで南の島そのものでした。長谷川村長や川島都議等から激励のお言葉をいただき、「げんき農場」より届けられたあしたば40キロは、かき揚げ・和え物・蒸しパンにし、「三宅島は健在です！」との思いを来場者6万5千人の方々へ届くようにと、精一杯のアピールをしてまいりました。

参加部員が思うのは、只々近い将来三宅の地で、こういうイベントが開催される事。その日が来る事を祈りつつ・・・

皆さん本当にお疲れ様でした。

(武蔵村山市 沖山 厚子)

三宅島ふるさとバンド ライブ「ふるさと三宅島を歌う」

2000年噴火災害発生から数えて、まる2年。様々な困難を乗り越えて三宅島の島民たちは、帰島をあきらめずに全国各地・都内全域で避難生活を送っています。

1995年に三宅島で生まれた「三宅島ふるさとバンド」。メンバーの中で島の出身者は一人もいません。しかし、**三宅島を第二のふるさとと決め、困難に直面している島民たちの心情と決意をオリジナル作品に乗せて、心を込めて歌います。**

日 時：2002年6月30日（日）午後2時30分～午後4時30分
開場 午後2時

会 場：エプタ・ザール

（狛江市和泉本町1-7-16 小田急線狛江駅より徒歩7分 狛江一小そば
当日は、狛江駅に案内の人がいますので、ご安心ください。）

出 演：三宅島ふるさとバンド

あなはら・こういちろう いけだ・まさひこ みたに・あきら
たべた・しげる にしむら・さえこ やまもと・ゆうき（助っ人）

入 場 料：**無料**（ただし、**三宅島島民救援カンパを募ります。**このカンパは、会場借り上げ費を差し引いた上で、4月21日に設立された全島民をカバーする「三宅島島民連絡会」の活動支援金として寄付されます。）

*会場に駐車場はありません。車でご来場の方は周辺の有料駐車場をご利用ください。

ジャック・T・モイヤー三宅島来島50周年記念パーティーのお知らせ

「ジャックさん」の愛称で、私たち三宅島島民をはじめ多くの人々から、尊敬と親しみをこめて呼ばれている**海洋学者ジャック・モイヤー氏が、三宅島に来てから本年で50年を迎えます。**

避難中の現在も、三宅島を基調とした講演活動を行い、島民の現況を世の人々に理解してもらうことに大いに役立つほか、三宅の子ども達との絆を絶つことなく、秋川で授業に参加したり、夏の海浜教室などを実施してくれています。

全島避難という現状の中で「どうか？」という懸念の声もありましたが、このような時こそ、学術・教育・経済・国際…等、あらゆる面で三宅島の発展と共にある「**モイヤー先生の多大な功績を讃え、三宅の将来を語り合うことが出来たら…**」と計画しました。

日 時：平成14年7月20日（土・海の日）
16:00～18:00（受付15:30）

会 場：霞ヶ関ビル33階 東海大学校友会館

千代田区霞ヶ関3-2-5 TEL:03-3581-0121(代)

会 費：三宅島島民 5000円 一般 10000円（記念品代含む）

発起人代表：山田 和快

連 絡 先：田中 平太郎 TEL:0424-83-1155

永井 タケ子 TEL:042-728-1798(夜)